

# 城跡内のご案内

## 佐和山城跡へ登城されるみなさまへ

1. 佐和山城跡は、清涼寺や龍潭寺などの所有する山です。山での火の使用はおやめください。
2. ゴミは各自で持ち帰るなどして、大切な文化財の保全にご協力ください。
3. 山中にトイレはありません。
4. 団体で登城を計画される場合は、山の所有者である清涼寺や龍潭寺の了解を得るようにしてください。



### 1 きりとお切通し

古絵図に「かもう坂通り往還」と記されている切通しです。佐和山城が城として機能していた時代には、佐和山城の北を限る道であり、東山道と琵琶湖岸の松原をつなぐ道として、旅人や牛馬が頻りに往来しました。



### 2 西の丸跡

古絵図には、西の丸に南北方向に3段の曲輪が描かれ、上段に「焰硝櫓」、下段に「塩櫓」と記しています。ただ、現在は下段を「焰硝櫓」と通称しており、名称の混乱が見られます。また、周囲には西に伸びる曲輪群も存在します。



### 3 本丸跡

佐和山の山頂、標高 232.9mの位置に本丸が設けられていました。現在も山頂は平坦ですが、かつて本丸に存在したであろう天守台や枳形（入口）などの遺構は、ほとんど確認することができません。本丸は大規模な「破城」（城の破壊）があったと考えられます。

# 太鼓 佐和山城跡のご案内

## 佐和山城の歴史

鎌倉時代初期 近江源氏・佐々木定綱の6男時綱が、佐和山の麓に館を構えたのが始まりと伝えられています。

その後、佐々木家は六角氏と京極氏に分かれ、対立。佐和山城は、両勢力の境目の城として攻防が繰り返されました。

戦国時代に入ると、京極氏に代わって浅井氏が覇権を確立し、六角定頼と対峙します。しかしながら、上洛のために美濃からやってきた織田信長によって一変します。

信長は、浅井長政に妹お市を嫁がせ上洛の足がかりとし、六角氏の観音寺城を攻め、近江を制圧します。しばらくして、反信長勢力を中心に元亀の乱が始まり、信長は姉川の戦いで浅井・朝倉連合軍を破り、浅井氏は小谷城と佐和山城に逃げ込みます。信長は、佐和山城の東西南北に武將を布陣させて包囲しました。城内に立て籠もった浅井家臣の磯野員昌は約8ヶ月籠城しますが信長に降伏。信長は重臣の丹羽長秀を配し、安土城築城までの間、近江支配の核、京都と岐阜の中継拠点、西国への最前線という機能を維持、秀吉の時代にも堀秀政、堀尾吉晴、石田三成と佐和山城に重きを置きました。

石田三成の時代には、山上に本丸以下、二の丸、三の丸、太鼓丸、法華丸などが連なり、山下には東山道に面して大手門が開き2重に巡らせた堀の内には侍屋敷、足軽屋敷、町家などの城下町が建設され、佐和山西麓には琵琶湖の松原湊につながる百間橋が敷設されました。

関ヶ原の合戦より遅れること2日、小早川秀秋ら寝返り組を主力とする15,000人の兵が佐和山城を包囲、三成は合戦で破れ湖北へ逃走、佐和山城は三成の父、兄の守備は堅く執拗な攻撃によく耐えましたが、兵力の違いはいかんともしがたく落城。天守は焼かれ自刃して果えました。

徳川家康は、関ヶ原の合戦の論功行賞として、井伊直政に佐和山城が与えられましたが、翌年、直政死去。家老の木下守勝は家康に相談し、彦根山への移築を決定しました。

佐和山城は、歴史のなかにのみ生きる城となったのです。

### ボランティアガイドご利用の手引き 私たちがご案内します

彦根ボランティアガイド協会では、郷土の語り部が国宝彦根城をはじめ「彦根まちあるき」のガイドをいたします。ガイドご希望の方は、下記要領をご覧ください。

- 対象者 1名様より受付いたします。団体様も歓迎します。
- 料金 ガイド案内は無料です。ただしガイド1人につき交通費1,000円頂戴いたします。
- 予約 当日の1週間前まで受付いたします。
- 申込方法 申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXにてお申込みください。なお、メール、HPからも受付しております。

用紙送付先 FAX 0749-22-6849

#### ●お問い合わせ先

彦根市観光案内所 TEL0749-22-2954

E-MAIL i-hikone@hikoneshi.com

URL <http://www.hikoneshi.com/guide/>

(社)彦根観光協会HP内

皆様のご協力を頂き、大切な歴史遺産を後世に守り伝えましょう。

### 4 すみいしがき 隅石垣



本丸跡を大手方面に下ると、岩盤上にわずかに残る石垣を確認することができます。この石垣は本丸の隅部に位置し、しかも石垣の基底部であったと考えられます。本丸跡の外周では、このような石垣を7箇所確認することができ、本丸跡の石垣の想定ラインを復元する上で貴重です。

### 5 せんがんに 千貫井



本丸の南西部の山腹に穿たれた井戸。岩間を流れた地下水が、ここで湧き出ていると考えられます。山上に築かれた城にとって、この井戸は千貫にも値する貴重な水源でした。

### 6 とじょうみち 登城道



本丸の石垣を少し下ると、登城道を確認することができます。登城道は、小さな曲輪（平坦地）と切岸（急斜面）を迂回しながら本丸へ向かっています。

### 7 おおくるわ 大曲輪



本丸の北東に築かれた大曲輪。西の丸と登城道から伸びる通路はこの大曲輪で合流し、さらに二の丸方面に向かっていています。現在、通路の一部が崩れており、大曲輪に行くことができません。

# 佐和山城跡MAP



**佐和山城跡観光案内所**  
3/末~11/末の土・日・祝

観光案内所には、彦根ボランティアガイドが待機しております。ハイキング情報、注意点等、お気軽にお尋ね下さい。原則として、頂上までのご案内は事前予約のお客様に限られます。

拝観 9:00 ~ 17:00  
(1月, 2月は 16:00 まで)  
拝観料 大人 400 円、  
小中学生 150 円

龍潭寺山門をくぐり、本堂を左に見て境内墓地を通過し、右側の登山道を行くと、急な坂道になります。

急な坂道を左右に曲がりながら約 15 分、山の尾根に出ます。

この尾根は、鳥居本からのかもう坂、長寿院からの登山道との合流点になります。この見どころは切通しです。

100mほど進むと三段に分かれた曲輪へ。「塩硝櫓」と書いた立札があります。

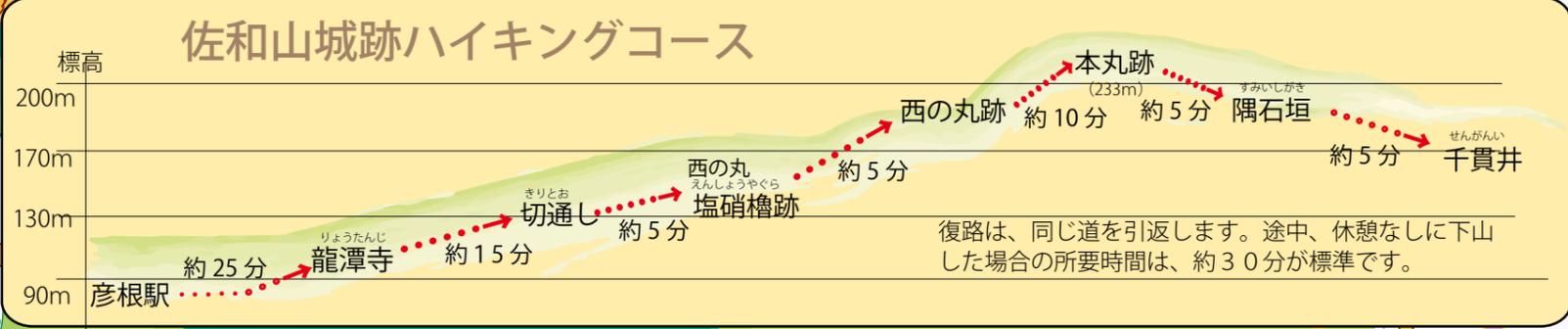
急な坂道を登りきると平らな山頂に出ます。ここが本丸跡です。眼下に琵琶湖や彦根城、湖東平野、東には中山道(当時は東山道)が通ります。

本丸跡に向かい右側の斜面に幾筋かの竪堀が見られます。やがて西の丸跡の案内板に着きます。

本丸跡南の三角点を通り、50mほど下ると隅石垣があります。

千貫井から彦根市街地が眼下に見られます。

## 佐和山城跡ハイキングコース



佐和山を中心としたイラストです。実際の縮尺とは異なります。イラスト：GTO 企画